



在仏日本人会 会報 N°306 2024年 3月・4月号

JOURNAL JAPON

第15回 音読発表会

～保護者の感想～

1月24日(水)、27日(土)に音読発表会を行いました。各教室にて15分ずつ発表しました。
感想を保護者の方々よりいただきました。

今年度も音読発表会にて、子ども達の生き生きとした発表を見ることができ、とても感動いたしました。

私は子どもの通う3クラスの音読発表会を参観することができました。

小1下クラスは「おかゆのおなべ」。

少し緊張した様子のお子様達。そんな中でも号令や自己紹介、音読発表と皆さんそれぞれ一生懸命発声し、頑張っている様子が素晴らしかったです。昨年よりも長い文章が読めるようになり、とても成長を感じました。そろって読むところなどとても可愛かったです。

小2下クラスの発表は「お手紙」。

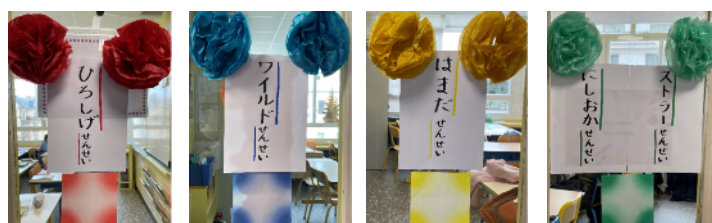
文中の悲しそうな時や励ましや嬉しい時の表現など、皆さん感情を込めて読んでおりとても素晴らしかったです。たくさんの保護者の皆様の前で緊張もしていたと思いますが、それぞれのご家庭での練習の成果も出ており、欠席のため急遽代役で読んでくれた生徒さんとても上手に読んでいて、生徒皆さんの頑張りが伝わってきました。

小4下クラスは「プラタナスの木」。

生徒皆さん発表する事にも慣れを感じ、安心して観ることができました。段々と学習する内容も難しくなってきましたが、それぞれ本の内容をきちんと理解し、強弱や気持ちを込めて読む、間を取りながら読んだり皆さんとても素晴らしかったです。ワイルド先生も仰られておりましたが、週に一度の補習校の授業と各ご家庭での学習の中でこんなにも読めるようになり、皆さんの頑張りに感動いたしました。

生徒の皆さん、ご指導いただいております先生方、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

小1下、小2下、小4下クラス保護者 菊池恵



▶ご帰国の方 要予約

引越しセミナー

4/4(木), 4/30(火)
10～12時

ZOOM会議またはパリ15区事務所

引越の流れ、引越免税、ワイン輸送、
クリーニング、解約手続きなどご案内

国内引越も承っております！

パリ五輪の影響で
引越も混雑が予想。
早めのセミナー参加で
情報収集!!



至れり尽くせりのお引越
日本トランスユーロ
transeuro.jp

☎ 01-4058-1000
✉ sales@transeuro.jp

（音読発表会つづき）

今年も綿密なスケジュールの元、先生並びに保護者の皆様とのご協力により、音読発表会を無事執り行うことができました。先生方におかれましては、通常の授業に加えて本イベントに向けてご尽力をいただき誠にありがとうございました。

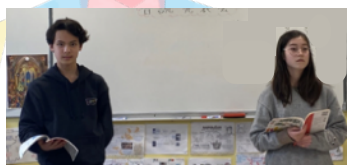
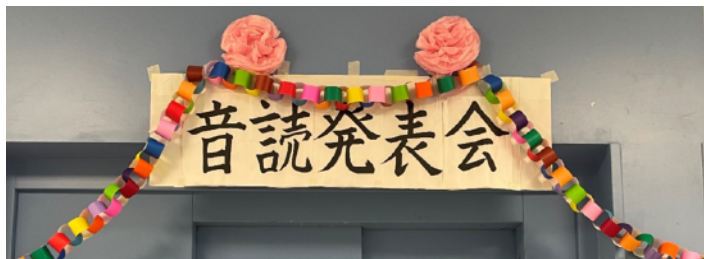
さて、我が家は現在小4下と小3下クラスに通っております。二人とも、「あかるい あさひだ あいうえお」の新小1上からスタートし、早いもので上の子は今年で補習校8年目、下の子は6年目となります。小3下の音読発表会は、ここで転んだら三年きりしか生きられないと伝えられているとうげを題材にした、民話の「三年とうげ」を読みました。うっかり転んでしまったおじいさんが絶望的になって寝込んでしまい、まるで一休さんのとんちを彷彿とさせる、ある少年の機転のきいた一言で最後には救われるという楽しいお話です。悲しくなったおじいさん、最後は嬉しくてしょうがないおじいさんの様子を上手に情感を込めて読んでくれました。自然の描写も落ち着いて読み、子供たちの大きな成長を感じる機会となりました。保護者の前で、はにかんだような何ともかわいらしい子供たちの表情が心に焼き付いています。先生と生徒間の強い信頼関係がよく伝わって来ました。

小4下は椎名誠の「プラタナスの木」を音読しました。文章は、特に話し口調のような部分では、意味が分かっていないと区切って読む事が難しい印象を受けました。これは流石、4年下の教科書だなと感じました。会がはじまると、雑音一つなくシーンと静まり返る中、子供たちは皆それぞれ、淡々と、絶妙なペースで、かつ非常に落ち着いて読んでいるではありませんか。感動の一言に尽きます。先生のご指導の賜物です。感謝申し上げます。

音読発表会を通じて、子供たちの日本語の上達と心の成長を垣間見ることができる貴重な体験となりました。子供たちにとっても人前で発表することは、これからの人生で大きな財産となる事と信じます。先生が仰ったように、毎週少しの時間でも、塵も積もれば山となります。この一瞬一瞬の時間を、信頼できる素晴らしい先生方と共に、パリの補習校で勉強できる環境がある事に感謝でいっぱいの気持ちです。

日頃よりご指導いただいている先生方、いつも生徒たちへの眼差しがやさしい校長先生、補習校運営にご尽力いただいている学校関係者すべての皆様へこの場を借りて深くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

小4下 保護者代表 石崎美奈子



フランスにおける 日本語教育と私

私が外国人のための日本語教育というものに接し始めたのは1980年代後半でした。日本経済の興隆期後、バブル時代が生み出した日本語教育への熱い眼差しは漫画世代を生み出し、フランスにおける日本語教育の隆盛期へと結びついて行きました。

私は当時はUniversité Paris 4 Sorbonne（パリ第四大学ソルボンヌ）のLettres modernes（フランス言語文学科）でLicence（学士）、Maîtrise（修士）終了後、博士課程に進んでいました。学士号準備過程の中で16世紀文学の講義が必須で、その年はモンテーニュについての講義でした。モンテーニュの人間味の深い人生哲学にすっかり魅了され、モンテーニュをじっくり読むべく博士論文はモンテーニュの哲学に取り組みました。指導教授から「自然論」という膨大なテーマをいただき、この魅力的な哲学者は4世紀前からまた現在でも多くの研究の対象となっているのですから、まして文学的才能などない私はなかなかこれといった結果を得られずあれやこれやと試みを繰り返すばかりでした。またその当時は商業翻訳の仕事もたくさんあり、その面白さにも取りつかれていた時代でもありました。そんな中、夫の友人のアジア言語学者のMaurice COYAUD（モリス コヨー）から「Ecole Polytechnique（国立理科大学）で日本語教育を取り入れることになった。やってみないか」との話を受けました。

その当時、日本語学習者が激増する中、高校、大学、Grandes Ecoles（グランゼコール）などが続々と日本語講座を開設していました。故に日本語教師不足の時代。フランスで日本語教師になるには外国語としての日本語教育の素養があるか否かよりも、フランス語が出来るか否かが重視される時代であったと言えます。

ということで、外国語としての日本語教育の経験がほとんどない私でしたが、このお話をお受けしました。今から思えば、私は何と恵まれた幸運者であったことでしょうか。

というのは、Ecole Polytechnique（国立理科大学と訳すのでしょうか）とは理系のGrandes Ecoles（グランゼコール）の最高峰でノーベル賞受賞者から、政界財界の中枢を構成する人材を輩出している教育機関。Ecole Polytechniqueはナポレオンにより創設され、現在も国防省に所属し、個々の学生は入学した時から卒業するまで、将校であり、学生には給料が支払われています。

Ecole Polytechniqueで日本語を教え始めたのは1987年9月の新学期からでした。日本人だったら日本語を教えられるというものではありません。日本語を正しく分析し、外国人に分かりやすく正確に説明するには、それなりの知識と十分な準備が必要です。当時フランスで出版されていた桑江邦夫の「日本語」はその意味で非常に有益な本で、私はこの本にどんなに助けられたか測り知れません。

このような優秀な学生に自分の母国語を教えることの面白さ。特に博士論文の膨大なテーマに振り回されていたので、それに比べ日本語を教える明快さに魅了され、遂に日本語教育が私の本職となりました。

（次ページにつづく）

（「フランスにおける日本語教育と私」つづき）

長いバカンスがうめいほど日本語教育に情熱的に邁進しました。学生数もクラス数も順調に増えていきました。また、ほかのグランゼコールもどんどん日本語講座を開設し、私はさらに他の2校を担当したりと、外国語としての日本語教育の隆盛期の大波に乗った感じでした。

日本語学習者数はどんどん増えていきましたが、教えるための教材不足、教師たちは孤立奮闘の時代でもありました。国際交流基金の教材援助、また日本語教授の質を高める目的で基金が世界に散らばる日本語教師たちを日本に招聘し、一か月の日本語教育集中講義を毎年組織していましたが、それにも参加させていただいたりしました。そういう中、徐々に他国、他校で教えている日本語教師たちとの接触も増えていき、ヨーロッパ日本語教師会が1995年に設立、私もその設立の発起人の一人でした。そして、フランスにも日本語教師会を作ろうと、その当時コンタクトのあった同志数人と、1997年5月にフランス日本語教師会を設立しました。そして私が当会の会長の任を務めることになったのです。

ヨーロッパ日本語教師会の同志に助けられ、手探り状態で始めたフランス日本語教師会ですが、その設立が時代の要求に沿っていたでしょう、国際交流基金、パリ日本文化会館、そして日本大使館、その他の機関からの協力援助を受け、会員数もどんどん増え、活動も軌道に乗り、順調に伸びて行ったと言えます。月1回の勉強会、2ヵ月に1回の「フランス日本語教師会便り」の出版送付（当時はインターネットはまだ普及していませんでした）、フランス全国を巡回しながらの年一回のフランス日本語教育シンポジウム、シンポジウム発表論文集出版と、密な活動を継続させるのは役員一同の献身的な努力が必要でした。日本及び世界の日本語教育の一流講師を招聘し、様々な日本語教育の教授法を紹介し、フランスにおける日本語教育の質の向上に貢献したと自負しています。

1997年に設立し、以後12年間会長を務め、2009年の総会で辞任いたしました。

その前年にINALCO(国立東洋言語文化学院)のFrançois MACE 教授とパリ第7大学（現在のUniversité Paris Cité）のCécile SAKAI 教授を筆頭に、日本語教師会会長として私も名を連ね、フランスにおける日本語教育担当者を結集したCEJF（フランス日本語教育委員会 Comité pour l'Enseignement du Japonais en France）が組織され、2008年11月15日にLe japonais, c'est possible : Etats généraux de l'enseignement du japonais en France（日本語は可能：フランスにおける日本語教育総まとめ）という大コロックをEcole Normale Supérieure d'ULMを会場にして開催しました。これは特に当時中国語に押され気味の中等日本語教育と日本語 Agrégation(中等（高等）教育教授資格)を擁護し、日本語教育をアピールすることを目指しての開催でした。このコロックはフランス日本語教育史の一ページを飾るに値する出来事でした。そして、私にとってこの事業は仏教師会会長としての最後の大きな仕事でした。

私が会長を辞任した年は図らずも私のEcole Polytechnique定年退職の年でした。フランスにおける日本語教育に対する私の任務は終了しました。私の長い人生の中の12年間でしたが、大変だったとはいえ、実に充実した年月でした。そして、私の74歳の時、フランスにおける日本語教育に貢献したということで日本国から双光瑞宝章という勲章をいただきました。微力ながらも貢献出来る機会を与えられ、本当に幸運であったと思います。

最後に「フランス日本語教師会 Association des enseignants de japonais en France AEJF」は5代目会長である中島晶子先生のもと、充実した活動を持続的にを行い、ヨーロッパレベル、さらに世界レベルの教師会に成長しています。



石井陽子 略歴

- 東京生まれ。東京都立三田高校卒業、早稲田大学文学部仏文科中退、渡仏。
- カーン大学 (Université de Caen) 外国人学生別科フランス語上級免状 取得 (Diplôme supérieur d'études françaises)、
- パリ-ソルボンヌ(第四)大学 フランス言語文学科 (Université Paris –Sorbonne (Paris IV), Section Lettres Modernes)、学士号 (Licence ès lettre)、修士号 (Maîtrise - Lettre moderne)、Diplôme d'Etudes Approfondies 取得
- 国立理科大学 (Ecole Polytechnique) 日本語専任講師
- フランス日本語教師会設立、初代会長
- 賞勲 フランス教育功労勲章 (Chevalier dans l'ordre des Palmes Académiques)
- 双光瑞宝章-日本国外務大臣表彰受賞



日本人会の読み聞かせ

日本人会のボランティアメンバーが毎週水曜日11時30分～13時、未就学・小学生の子どもたちに読み聞かせをしています。

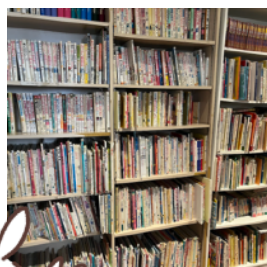
活動時間中であれば、ご都合にあわせた来館時刻でOK！たくさん本を読んでほしい方は、12時ごろまでにお越しください。

日本人会の子供図書館には約2000冊の子供向けの本が揃っている他、ご要望があれば紙芝居ができるセットもございます。

＊＊読み聞かせの活動にご興味がある方＊＊

読み聞かせ未経験の方、おかあさまはもちろん子育て経験のない方でもご興味がある方は歓迎いたします。

お申し込みは、日本人会事務局までお電話で。01 47 23 33 58
読み聞かせボランティアをしてくださる方は日本人会会員に限ります。活動の見学も歓迎いたします！



パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2024年3月10日～5月10日)

パリ日本文化会館 事業案内

【展示】

武者絵展——相馬野馬追応援企画【パリ編】

日時：3月12日（火）～30日（土） 会場：地上階ホール
内容：『NARUTO』『ONE PIECE』『デスノート』の作画監督などで知られるアニメーター／イラストレーターの横田守氏らによって、福島県相馬地方の相馬野馬追武者祭りの支援を目的にはじまった復興支援のためのイラスト展覧会・パリ編。2012年から日本各地で開催された過去の展示作品を約100点紹介するほか、イラストと復興支援に関する講演会やイラスト教室も開催予定。

生け花展示

日時：4月9日（火）～20日（土） 会場：地上階ホール

展示「齋藤翠恵 書の世界「希望」」

日時：4月23日（火）～ 5月4日（土） 会場：地上階ホール
内容：書家・齋藤翠恵は12歳から絵筆を持ち始め、空海の書である風信帖（中国で仏教を学んだ空海が僧侶最澄に当てて書いた手紙）に出会い、書道の世界に魅せられて以来自由な書道に専念してきました。齋藤氏は字の意味とストーリーを探究した後、思考集中力とエネルギーとを一体化し自分自身を超えて表現します。今回の展示では、力強い光、希望の光、精神の光を放つ数々の作品を通じて、不安定な現代の世界情勢の中で不安な気持ちをいただく人々に明るい希望と夢を与えることでしよう。

展示 高砂淳二写真展「鏡花水月」

日時：5月7日（火）～ 6月1日（土） 会場：地上階ホール
内容：これまで100カ国以上の国々を訪れ、38年に渡って地球の姿を撮り続けている自然写真家・高砂淳二。海の中から星空まで、カメラを通して自然と人間の本来あるべき関係を模索し続け、日本古来の自然観をもとに地球との対話をしてきました。本展では、地球を構成するさまざまな動植物が織りなす繊細で美しい調和、生命の息吹を感じる瞬間の数々を展示し、環境危機の今、自然を愛で、自然と一体となって生きることを見つめ直します。

展示「丹下健三と隈研吾展 ー東京大会の建築家たち」

日時：2024年5月2日（木）～6月29日（土） 会場：2階展示ホール
内容：東京では1964年と2021年にオリンピックが開催され、多くの競技施設が建設されました。特に建築家・丹下健三（1913-2005）が設計した国立代々木競技場は二度のオリンピックで競技会場として活用され、オリンピックレガシーとなっています。また建築家・隈研吾（1954-）が設計した国立競技場は陸上競技会場のみならず開会式・閉会式会場となったことで21世紀の東京を全世界に知らしめました。この競技場も新しいオリンピックレガシーとして活用されることが期待されています。本展覧会の第一部では二つの競技場を、第二部では桂離宮から見た二人の建築家の住宅案を、そして第三部では二人の建築家がフランスから受けた影響やパリでの活躍を紹介しします。二人の建築家の軌跡を辿りながら国立代々木競技場と新国立競技場の魅力を中心に展開することで、2度のオリンピックが東京に残したレガシーのあり方や、それぞれの時代が要請した建築とは何だったのか、そして未来に向けた日本の建築の道筋を探ります。

【公演】

YUMÉ

日時：4月12日（金）10時半及び15時
会場：大ホール 入場料：大人8€、子ども5€、10人以上の子どもグループ一律30€
内容：この作品は、不思議でミステリアスな世界に引き込まれる、子どもから大人まで楽しめるダンス公演です。振付家エドゥアール・ユは、日本の昔話やアニメーションにインスピレーションを得てこの作品を手がけました。「Yumé」は巧みなダンスで構成された言葉のない物語です。登場人物はその中で大冒険を体験します。主人公の女の子は失われた自分の影を探しに、長い旅に出ます。その旅路では奇妙で信じられないような出会いがあり、幻想的な国々を次々と訪れることになるのです。そして最後には深い海の底なのか…雲の中で迷ってしまったのか…女の子は自然の法則が完全に覆された神秘的な場所に辿り着きます。

【映画】

「男はつらいよ」全50作品年間連続上映

日時：3月23日（土）・30日（土） 会場：大ホール
内容：大人気によりアンコールが続いていた当館での前代未聞の「男はつらいよ」特集も、ついに3月末をもって終幕。最後の上映にぜひ駆けつけて、ともに「寅さん」を送り出しましょう。3月23日（土）『男はつらいよ 幸福の青い鳥』（第37作）、3月30日（土）『男はつらいよ 寅次郎心の旅路』（第41作）が最終上映です。

森田芳光監督特集【第二部】

日時：4月4日（木）～6月29日（土） 会場：大ホール
内容：『家族ゲーム』『失楽園』などで知られる森田芳光監督（1950-2011）の第二部です。昨年上映された13作品から9作品を再上映するとともに、さらにフランス未公開の14作品を上映。商業デビュー作『の・ようなもの』（1981）から、『僕達急行 A列車で行こう』（2011）まで、30年にわたって第一線で活躍し続けた森田芳光監督の魅力に迫ります。上映初週には、公私どものパートナーだった三沢和子さんに加え、森田芳光の大ファンで知られる宇多丸さん（RHYMESTAR）を当館に招へい。宇多丸さんは、TBSラジオの人気番組「アフター6ジャンクション2」を一週間お休みしてパリに駆けつけてくださる予定です！ 詳細はウェブサイトにて。

Noh Climax by Hiroshi Sugimoto

日時：4月6日（土）19時 会場：大ホール
内容：日本を代表する現代美術作家である杉本博司。ジャコモメッティ財団での展覧会「Giacometti and the Noh by Hiroshi Sugimoto」の開催を記念して、日本の優れた舞台公演をオンラインで紹介する国際交流基金のプロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS -Selection of Japanese Performances-」で製作された前近代を再現し、「時間・歴史・人間の意識」をテーマとする杉本芸術の壮大な世界観を提示する映画「Noh Climax」の上映とともに、杉本氏によるトークを行います。

【講演会・セミナー・シンポジウム】

アジア・日本から発信する新しいサステナブル建築のデザイン

日時：3月21日（木）18時30分～20時 会場：小ホール 参加費：事前予約制・無料
内容：日本やアジアの諸地域で持続可能な建築をテーマに設計活動が続けている建築家・末光弘和を講師に迎え、建築作品の紹介を行うとともに、アジア型の環境建築・環境都市のビジョンを語っていただきます。

空手の道を考える——文化とスポーツの間

日時：3月23日（土）14時30分～ 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：文化の中でも大きな位置を占める「武道」は、世界中、とりわけフランスにおいて、様々な表現され、また多くの人の興味の対象になっています。武道の中でも人気の高い空手は、オリンピック競技となった柔道のようにスポーツとして分類されるべきものか、もしくは、元々の伝統的、且つ、文化的なアイデンティティを保持するものとしてとらえられるのか、判断が分かれるものです。本講演会では、ジェレミー・ブリッド氏が、空手を例に、また、沖縄とパリでのご自身の体験を基に、武道の「スポーツ化」について語ります。

宇多丸（RHYMESTER）ジャパニーズラップのレジェンド

日時：4月3日（水）18時30分～20時30分 会場：大ホール 参加費：事前予約制・無料
内容：1989年の結成以来、黎明期からジャパニーズ・ヒップホップシーンを牽引してきたグループ Rhymester。その創立メンバーの宇多丸が、彼の音楽キャリアやラップへの情熱を語ります。

日本の長寿の現状と課題ー百寿者研究からの知見ー

日時：4月27日（土）14時～16時 会場：小ホール 参加費：事前予約制・無料
内容：高齢者心理学を専門とする権藤恭之・大阪大学人間科学研究科教授を講師（オンライン参加）に、Jean-Marie ROBINE・フランス国立衛生医学研究所名誉研究ディレクターをモデレータに迎え、日本の長寿の現状と課題について議論します。

丹下健三と隈研吾展 開幕記念 ラウンドテーブル

東京オリンピック1964のレガシー ～国立代々木競技場の世界遺産登録に向けて
日時：4月30日（火）14時半～16時半 会場：大ホール
内容：国立代々木競技場は1964年に開催された第18回オリンピック東京大会の水泳・バスケット会場として整備された後、幾度かの大規模改修を経て、2021年に国の重要文化財に指定された。さらに同年、国立代々木競技場は第32回オリンピック東京大会の文化ホール会場、パリンピック車いすラグビー会場として活用され、新聞報道において東京オリンピックのレガシーとして位置付けられることが増えている。本シンポジウムは、国立代々木競技場の世界文化遺産登録活動を国内外に広くアピールすると同時に、日仏の有識者から登録実現のための貴重な知見を集めることを目的とする。

マンガ表現の可能性について

日時：5月4日（土）15時～17時 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：50年余りのキャリアでマンガを描き続けてきた かわぐちかいじ先生が、マンガの持つ表現の力、魅力について語ります。映画、アニメーション、ラジオドラマなど、それぞれに異なる特徴を持つ他のメディアと比べた時、マンガに宿る特有の表現力とは何か？講演では自作『沈黙の艦隊』を具体例として取り上げ、浮き彫りにしていきます。又、自身のマンガへのこだわり…何故マンガを描きたいのか…？マンガにできることを追いかけていたのか…？などを語る予定です。

【ワークショップ】

粘土で作ろう！

日時：4月6日（土）及び9日（火） 会場：教室2
参加費：180€（4セッション1コース）
内容：超軽量粘土の白、マゼンタ、青、黄色の4色を調合して、お花見弁当と風鈴を作ります。作った作品はお持ち帰りできます。汚れても良い服装で参加ください。
●春のお花見弁当 14時～15時半、参加費10€
春になると、日本ではみんな桜の木の下でお花見をします。春色いっぱいのお花見弁当」を作ります！
●和柄風鈴 16時～17時半、参加費12€

日本の暑い夏に風鈴の音は清涼感をもたらしてくれます。自分だけの風鈴を作って窓辺に飾ってみませんか？

ミニいけばな

日時：4月11日（木）14時半及び16時 会場：教室 参加費：10€（材料費込み）
内容：いけばなの基礎を学びながらいけばな文化を体験してみましょう。8歳以上対象。

絵手紙

日時：4月13（土）14時及び16時 会場：教室 参加費：10€（材料費込み）
内容：絵手紙とは、はがきに「絵」を描き、「文字」を書いて、真心を込めて贈る「てがみ」のことです。中山真理子先生がどのように絵手紙を制作するか丁寧に指導します。お友達や家族に心のこもった絵手紙を送ってみましょう18歳以上対象。

カタヒラヨシミ先生の漫画集中講座

日時：4月16日（火）～18日（木）14時～17時 会場：教室
参加費：135€（4セッション1コース）
内容：ヨシミ先生と漫画の基本を学びましょう。12歳以上対象。

折り紙ヒコーキを作って飛ばそう！

日時：4月16（火）及び19日（金）14時、15時、16時 会場：地下3階フォワイエ
参加費：参加費：予約制無料
内容：「折り紙ヒコーキ」は、だれでも手軽に楽しめる遊びです。「1枚の紙がおどろくほど風に乘って飛んでゆく」、それが「折り紙ヒコーキ」です。JAL指導員が飛行機の仕組みを取り入れた折り方をお教えます。折った飛行機を一番長く遠くに飛ばせるのはだれかみんなで競争しましょう！6～12歳対象。

（次ページにつづく）

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris)

事業案内 (2024年3月10日～5月10日) 続き

柔道体験ワークショップ

日時: 4月17(水)～18(木) 会場: 大ホール 参加費: 予約制無料

内容: 柔軟で流れるような剣術の動きによって身体と精神の調和を養います。合気柔術、柔道の技、そして、礼儀や配慮といった教えを学べるワークショップです。動きやすい服装でご参加ください。

◆14時セッション: 5～10歳向け

◆15時半セッション: 10～13歳向け

レイモン・イヴ・カレン氏(八段、国家資格を有する指導者、パリ柔道委員会副委員長)が柔道の手ほどきをします。

◆17時セッション: 13歳以上及び大人

ジャン・エリティエ氏(五段、国家資格を有する指導者、パリ柔道委員会メンバー)

が柔術を指導します。

桜の花を咲かせましょう!

日時: 4月19(金)～20(土) 会場: 教室

内容: 日本の春の花の代表ともいえる桜は、美と儚さ、新しい始まりを象徴し、日本人にとって特別な存在です。そんな桜のお話、春のお話をしながら、日本の春をいっぱい感じ、みんなで満開の桜の花を咲かせましょう。講師: コアントロ清香

◆11時半: 3歳以下セッション(未就学児セッション)

参加費: 10€(保護者同伴要)、所要時間: 45分

◆14時及び16時: 4歳～10歳セッション

参加費: 13€, 学童グループ一人当たり9€, 所要時間: 1時間

篆刻

日時: 4月19(金)～20(土)(水) 会場: 教室 参加費: 40€(材料費込み)

参加費: 浴衣レンタル付き15€, レンタル無し12€, 学童セッション一人当たり8€

内容: 篆刻は書道の一分野の、最も小さな芸術です。古来より「方寸の世界に宇宙を宿す」と言われるように、ほんの数センチの小さな空間の中に壮大な世界が広がります。今回のワークショップでは篆書、またはかな文字で、お名前またはご希望の字を彫ります。世界でひとつ、オリジナルの篆刻印は、作品や手紙にサインとして用いたり、本や持ち物に押したり、使い方はアイデア次第です。さらに印面を守るための「はかま」も作ります。10歳以上対象。

*以下についての詳細は、掲載サイトをご覧ください。

【教室】 <https://www.mcjp.fr/ja/agenda?subsections=cours>

囲碁教室 裏千家茶道-茶の湯 裏千家茶道教室 表千家茶道-茶の湯 表千家茶道教室 一立礼 日本庭園教室 生花教室 書道教室 日本画教室 布ぞうりワークショップ 折り紙ワークショップ 日本舞踊教室

【日本語講座】

<http://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais>

【JF にほんご eラーニング など】

https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

<パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ>

火曜日～土曜日、11時～19時 問合せ先: TEL 01 44 37 95 01

所在地: 101 bis, quai Jacques Chirac, 75015 Paris

<http://www.mcjp.fr/>

*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。

川柳仲間
大募集中!!

日本人会「川柳パリ会」2023年最秀逸千客万来選句の発表です。

今回も多くの方から選句・コメントを送っていただき、本当にありがとうございました。

EUヨーロッパ各国・日本・アメリカ・フィリピンからいただき、インターナショナルな雰囲気満載の千客万来選句となりました。

2023年最秀逸・二席・三席と作者コメントです。

[2023年最秀逸]

桜餅の替わりにピンクマカロンを パリっ子

作者コメント:

2023年最秀逸千客万来選句で、拙句を最秀逸句に選んでいただき、嬉しい限りです。

海外在住日本人は、日本食・食材に常に渴望を覚えています。その為、海外の食材で日本食材に似たものを、冒険者としてトライ&エラーをして探しています。どのメーカーの Pasta の麺が一番ラーメンの麺として使えるか、ルバーブをどう煮込むとダミー練り梅として使えるか、IKEA たらこチューブにどのように味付けすればたらこスパゲッティーソースの味に似るか等々。その中の一つが季節と色が同じような桜餅とピンクのカマロンです。目を瞑ってピンクマカロンを頬張れば、脳みそが誤変換をして桜餅の味に感じるかもしれません。

[2023年二席]

思いたい常に人生今が旬 ドルチェヴィータ

作者コメント:

共感するとのコメントをたくさんいただき嬉しい限りです。

この句には、コメントで皆様にいただいたようなポジティブな意味もたっぷり込めたのですが、過去を丁寧に振り返ったり未来を綿密に計画するのは面倒だし、今が旬だと思って生きればいいじゃん、というずぼらな意味もちょっとだけ込めておりました。川柳=世相風刺、という潜在観念がありましたが、そうでもない句でも全然いいということで。クラブへの参加者の方が増えるのを楽しみにしております。

[2023年三席]

月の夜は双眼鏡で月旅行 スゲピー

作者コメント:

三席に選ばれたこと、とても嬉しいです。パリ市内の車の規制が始まってから何年たつのでしょうか。年々、星も月も鮮やかに見えているんですよ。密かな私の楽しみです。どうぞ一度、お試しを。

日本人会「川柳パリ会」では新しい会員をお待ちしています。川柳にご興味がある方は、「通りすがりの野次馬」として一度NET句会を覗いてみてください。次のリンクから柳号・パスワードを入力すれば、投句された句・コメントなどを見ることができます。

リンク: <https://ntgm.nolimbre.com/paris/login>

柳号: 通りすがり

PW: paris75116

日本人会「川柳パリ会」
代表 石井

日本人会「川柳パリ会」

新刊案内、アトリエやイベント情報は

@JunkuFr



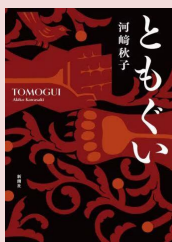
営業時間 月～土 10時～19時

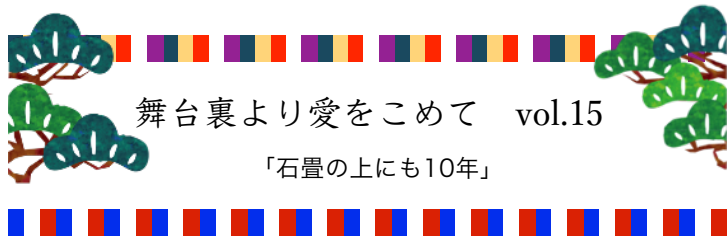
Librairie japonaise JUNKUDO

18 rue des Pyramides

75001 Paris France

Tel: 01 42 60 89 12

Mail: contact@junku.fr『ともぐい』
河崎秋子 著
新潮社



フランス人物伝 <15>

～ウジェーヌ・ドラクロワ (画家)～

坂本 昭二 (龍谷大学)

十年一昔、と申しますが一昔前の今頃、皆さまはいかがお過ごしでいらっしゃいましたでしょうか？わたくしはその頃ひとりパリへ参り、数ヶ月後子供たちが通うであろう学校近辺を歩き周り、最寄りのメトロ駅、バス停チェック抜き無く、その沿線上で空きアパートマンがないものか等短期間でタスクをこなそうと躍起になっていたの数日を過ごしておりました。学生時分のバックパッカー米国一人旅以来の単独海外旅、それまでの来仏時はモンマリの後をついて街中移動と人任せでしたので、バスの乗り方をきちんとマスターしたのはこの期間、様々な発見あり濃厚なショートステイでございました。

2014年に移り住みまして以来、しばらくは子供たちの教育環境と、生活の基盤を整えることで精一杯でありましたが、当コラムvol.6に記しましたよう、翌年の2015年、通訳者さまとの奇跡の再会から色々なことが少しずつ動き始め、2017年にやっと“Atelier OGA Paris”なる“能楽”をはじめとする日本文化普及の為のアソシエーションを立ち上げることが叶いました。ワークショップ、ミニ公演、パリ日本文化会館での『伝統の継承』プログラム担当等させて頂きながら、ようやく2019年にAtelier OGA Paris主催公演『第一回パリ延年之會』狂言会開催に漕ぎ着けさあ第二回、と考えておりました矢先コロナ禍に見舞われ、しばらく足踏み状態を強いられるも、2022年に再開、来たる4月7日で“第四回”を迎えます。

家内工業での道のりはなかなかどうして凄まじく、時に経済的限界や、夫婦喧嘩、離婚騒ぎをおこしながら、能楽普及草の根活動も今年の9月で丸10年を迎えます。さて、パリの石畳にしがみつiki10年を迎えようとしております中でのつい先頃、「能・狂言の国、日本への誘い」と称し、観光庁主催、公益社団法人能楽協会主催事業として、人間国宝を含む錚々たるお顔触れでの能楽団が来仏されました。三日間に渡る能楽公演、それに先立ち、凱旋門での献花式にて観世流の先生が能『羽衣』の天女出立ちで御花を捧げられるという歴史上初のことも。

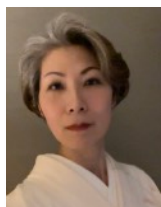
今回のパリ能楽公演、能は観世流、狂言は大蔵流で上演されました。能楽の世界には“役職”“流儀”“家柄”がございまして、モンマリで申しますと能楽師狂言方(役職)和泉流(流儀)野村万蔵家(家柄)の一門という肩書になり、狂言には現在“大蔵流”と“和泉流”という二流がございます。能楽公演は“能”と“狂言”がセットで上演され、狂言はどちらか一方の流儀が担当することになっています。この度は大蔵流の先生方がお見えでしたので、本来なら和泉流である息子の出る幕無きところでございましたが、大変有り難いことに“解説通訳”というお役役せつかり、最終日には普段日本では交流叶わぬ“大蔵流”の先生、人間国宝を囲む夕飯会という夢のような機会がございましたのです。能楽界を担う次世代の若者達を前に戦前戦後のお稽古風景からご自身のプライベートに至る貴重なお話が繰り広げられ、まさにパリミラクル、流儀を越えての語らいと何とも尊いひと時でございました。



1957年のパリ国際演劇祭にて能楽団が初めてフランスの地を踏まれて以来67年、わたくし共のこの10年の活動など洩垂れ小僧の域ではございますが、能楽の諸先輩方がこの芸術の都パリで抱かれた様々な思いと共に、更なる能楽普及に向け精進したく存じております！

本日はこの辺で。
平和への祈りを込めて。

Photo: 凱旋門セレモニーにて
世界平和への祈りと共に手向けられた献花



小笠原尚子 (おがさわらたかこ) プロフィール:

“やんちゃ狂言師の裏方古女房” 東京生まれ。神戸→名古屋→横浜→佐渡ヶ島育ち。故八世野村万蔵主宰“わざおぎ塾”にて学生時代に演劇を勉強中、狂言師小笠原匡と出逢い1996年に結婚、伝統芸能の世界に入る。その後、大阪生活を経て2014年よりパリ在住。

現在、パリで狂言普及活動の傍ら、自らは役者業を再開!



Eugène Delacroix

前回、フランス革命期に管理者のいなくなったヴェルサイユの動物コレクションをパリの植物園(Jardin des plantes)に移したのが一般の人々に開放された動物園の始まりであり、エティエンヌ・ジョフロワ・サンティレールが植物園内の動物飼育エリアの監督者であったことをご紹介しましたが、この動物園に足しげく通っていた人物に、7月革命を主題にした「民衆を導く自由の女神」(ルーブル美術館所蔵)などを描いた誰もが知る有名な画家であるウジェーヌ・ドラクロワがいました。

フェルディナン・ヴィクトール・ウジェーヌ・ドラクロワ(Ferdinand Victor Eugène Delacroix: 1798-1863)は、パリ近郊のサン＝モリス(Saint-Maurice)で生まれ、初等教育を受けたのち、1815年にはピエール＝ナルシス・ゲラン(Pierre-Narcisse, Baron Guérin: 1774-1833)のもとで絵画の修行をしています。

ドラクロワは1828年頃からライオンやトラなどの動物を描き始め、1829年には動物園のライオンが死んだことを聞きつけると、ライオンの解剖に立ち会って解剖学の面からも動物の体を詳細に観察して作品を描いています。1841年にはエティエンヌの息子である動物学者のイジドール・ジョフロワ・サンティレール(Isidore Geoffroy Saint-Hilaire: 1805-1861)に、動物に餌を与える時に間近で動物を見せてくれるように頼みこんでいます。ドラクロワの日記によるとこのような動物園通いは1854年になっても続いており、四半世紀にわたって動物の研究を行っていたことがわかっています。ドラクロワの動物を描いた作品の総数は約400点にのぼり、これほど多くライオンやトラを描いた画家はいません。

ところで、ドラクロワ以前にライオンを描いた画家にオランダのレンブラント(Rembrandt Harmenszoon van Rijn: 1606-1669)がいますが、レンブラントが描いたライオンはオランダを象徴するシンボルとしてのライオンであり(フランスではフルール・ド・リスがこれに対応します)、ドラクロワの描くライオンやトラは動物そのものを精密に描いた点で異なります。

動物の絵画以外にも多くの作品を残していますが、1832年には外交使節団の一員としてスペインや北アフリカを旅し、異国の文化を主題とした作品を描いていますし、また、パリの教会や宮殿などの建築物の壁画や天井画などの作成も行なっています。晩年は国立美術協会

(Société Nationale des Beaux-Arts)の創設に参加するなど活動していましたが、1863年に喉の感染症がもとで体調を悪化させ、8月13日に家政婦に見守られながら息を引き取っています。(画像はwikipediaより引用)



Jeune Tigre jouant avec sa mère (1830-31)

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談(会員のみ)

*要予約(電話に限る): 01.47.23.33.58

法律相談(フランスの法律問題) (手配料 5ユーロ)

事前予約の上、電話で相談を受け付けます。

法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類をご用意ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

健康相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

無料子ども相談室

臨床心理士、神経小児科医、保健師、助産師などの専門家がご相談にお答えいたします。ご希望の方は「子ども相談」という件名をつけてkodomo.fr@gmail.com 折口までメールください。

クラブ活動・各種講座

ふらんす俳句会

有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。

代表 樋山なをみ 連絡先 hiyamanaami@gmail.com

子ども図書館

読み聞かせ 毎週水曜日11h30~13h00。日本語児童図書の貸出・返却は随時。

永年登録料: 子供一人/2ユーロ

女声コーラス「みもぞ」

コーラスの仲間達と美しいハーモニーを作り、楽しいひとときを過ごしませんか。

日本の歌、ミサ曲、フランス歌曲など。毎週火曜日13:30-16:00、Notre Dame de Compassion / Place du Général Koenig 75017 Paris (Porte Maillot)

<https://mimosas-club-japon.jimdosite.com/> を参考に。

連絡TEL 06.33.89.56.59(石原) メール: mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ(NAC)

日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。毎月第一火曜日の18h頃-20h頃、オペラ界隈のカフェLa Clef des Champs (49, rue des Petits Champs 75001 Paris、京子食品の斜め向かい)に於いて月例の親睦会を開きます。飲み物代は自己負担。NAC会員以外の方の参加も大歓迎です。お問い合わせは日本人会まで。

マロニエの会

毎月第2火曜日15h~17h茶話会「La Clef des Champs」49 rue des Petits Champs 75001 Paris 第3日曜日&第4水曜日14h30~国際大学都市「日本館」で月例会。

ホーム訪問、講演会、新年会、希望祭参加、郊外農園バーベキュー大会、バス遠足、美術館・催し物見学、食事会と楽しい企画も盛り沢山。

会報を年3回送付。年会費15ユーロ

連絡TEL: 06-2253-7418 (六藤)、06-5170-4955 (二口)

ソフトボール大会

春秋の年2大会あり。年齢・性別・国籍に関係なく、個人またはチームでの参加可。

連絡:実行委員長 代理 橋本 勝義 TEL: 06-14-73-37-31

キッズテニス

ARJ16 Tennis Club (Stade Henry de Montherlant: 32 Bd. Lannes 75016 Paris)

キッズテニス 小学生から高校生 毎週火曜日(現地校のバカンスを除く)

17時 2クラス 小学校低学年から高学年生

18時 2クラス 小学校高学年から高校生

ただいま、若干空きがあります。年齢とレベルによりクラスが決まりますので、メールにてご相談ください。

一般クラス 随時会員募集中 初心者クラス、経験者クラスがあります。

火曜日 11時、12時、14時、15時、19時 木曜日 12時、13時、14時、15時

金曜日 11時、14時、15時

個人、グループでのレッスンをお受けします。

お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

川柳パリ会

インターネット上の「NET句会夏雲システム」を利用して開催されるバーチャルな句会を中心にした活動です。川柳をネット上の句会に投句したり、他の会員の川柳を楽しんだり、優秀だと思ふ作品を選出して参加することが可能です。

連絡先: 代表 石井 宏 parisici@yahoo.co.jp

書道同好会

毎週木曜日 15h~17h 参加費: 月20ユーロ

講師: 林 信賢

TEL 代表: 06 22 53 74 18 国際大学都市「日本館」

くもん日本人会教室

水曜日14h00~17h00 土曜日13h00~17h00 詳細はTEL:06 09 66 94 39 (中村)

シャンソンDidier教室

日時: 第2・第4土曜日(16時~18時)

場所: Cité des Arts (Métro Pont Marie) かSalle Saint-Roch (Métro Pyramides)

詳細は下記にお問い合わせください。

ch.tanaka@orange.fr

Tel. 06 0383 2674 (田中)

気功教室

毎週木曜18h30~19h30 全レベル参加歓迎

会場: 天理文化センター 8-12 rue Bertin Poirée 75001 Paris

最寄駅 Châtelet 参加費: 1回10ユーロ(日本人会会員割引あり)

気功の他に、太極拳、簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理の知識等も指導。講師/連絡先: ラン光旭(パリ第6大学医学学院利気功・太極拳講師)

TEL: 06-69-43-54-45 メール: yokogx@gmail.com

TEL: 06-69-43-54-45 メール: yokogx@gmail.com

健康と美・ウォーキングレッスン

元パリミラノ東京コレモデル/現役モデルによるウォーキング・写真のポージング・メイクアップ・Before & Afterなどニーズに合わせた個人レッスン。(コース3回会員180ユーロ・非会員別途料金) 詳細はお問い合わせください。講師: 北幸子 (Master Models,Oasis Styling) facustudio@gmail.com TEL:06-2296-0655

子供のための習字教室

土曜クラス: 第2, 4土曜日 11h-12h 場所: 日本人会 授業料: 1回15ユーロ(日本人会会員料金)。入学随時受付。

お問い合わせ: 六藤 06-22-53-74-18 kayoko94000@yahoo.co.jp

日本館茶の湯会(裏千家流)

於: 国際大学都市日本館

日時: 月二回金曜日(14時半~17時半) 月二回土曜日(12時半~16時)

参加費: 20ユーロ 15歳以下8ユーロ 学生25歳以下 10ユーロ

年会費 16ユーロ

*ZOOM 百人一首の会(無料) 月一回 日曜日13時~14時(茶の湯会会員のみのみ)

お問い合わせ先 nihonkan.cyanoyu@gmail.com

静かにお茶を楽しむ一時をご一緒できれば幸いです。

○稽古

金曜日(14時半~17時半) 3月01日・08日・4月12日・26日

土曜日(12時半~16時) 3月09日・16日・4月13日・27日

ズーム茶箱稽古* 3月6日(水)・4月23日(火) 10時~10時40分

ズーム百人一首の会* 3月3日(日)

ズーム個人稽古* 応相談 盆略点前・茶箱点前・風炉平点前

*茶の湯会員のみのみ

○花見茶会 調節中 御参加の皆様は御薄一服差し上げます

成人学習者向け日本語講座

*現在活動休止中

問い合わせ: おnihongocafe022015@gmail.com

ヨガ教室 当面のところオンラインレッスンと個人レッスン 詳細はメールにて

日時: 月曜日10h30~11h30、火曜日10h30~11h30/19h~20h、木曜日16h~

17h 会場: パリ7区 対象者: 全てのレベル 参加費: 1時間30€から

講師: ラロッシュ・アメリ 問い合わせ・申込み: info@vacances-amelie.com (日仏)

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。

日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。><https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/>日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランボーラボロスへどうぞご連絡下さい91, rue Saint-Lazare 75009 PARIS
TEL.01.53.32.20.00 まで
FAX.01.42.85.04.65



Michel BRUNEAU
(ミッシェル・ブリュノー
会友)
当会フランス語講座講師
1978〜98年日本に滞在
元上智大学講師

ジャクリューヌ パリに戻ってからよく一緒にPort-Royal修道院へ行ってサングラン (Singlin) **神父の説教と話をききました。

父 やはりブレーズに影響されましたね。

ジャクリューヌ 彼の影響ではなく、二人とも同じ考えでした。

父 私の生きているあいだは反対します。でも、その後は、好きなようにして下さい。

ジャクリューヌ もちろん従いますが、修道院に入らないで、家で修道女のような生活をさせて下さい。

父 それはかまいません。好きなようにして下さい。

【第四幕】

1651年父の死後

ジャクリューヌとブレーズ

ジャクリューヌ お父さんと約束して、修道院に入ることを遅らせましたが、今やっと実現できます。

ブレーズ でもあなたが修道院に入れば、私は一人ぼっちになります。

ジャクリューヌ ブレーズ、最初はあなたは賛成でしたね。イエスの弟子は世の中から離れなきゃなりませんと言ったでしょう。

ブレーズ お父さんが言ったように、イエスの弟子として生きるのに修道院に入る必要ありません。

ジャクリューヌ 前はもっと熱心でしたね。

ブレーズ 私は結婚するつもりがありませんが一人で生活したくありません。あなたが唯一の支援者です。

ジャクリューヌ ちょっとガッカリします。友達に影響されて、今は数学と気圧の問題で頭いっぱい、他のことに興味がないみたい。

ブレーズ でもジャクリューヌ、学問の進歩のことです。才能を持っているなら捨ててはいけません。それもキリストの言葉です。

ジャクリューヌ それもそうですが、私の場合はもう決まっています。修道院に入ります。

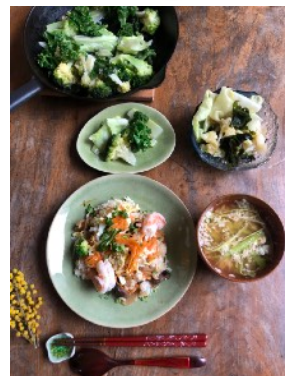
*Port-Royal(ポール・ロワイヤル・デ・シャン修道院):1204年に設立、パリ西南部Chevreuse渓谷の中心部、Magny-les-Hameauxに位置した。ポール・ロワイヤルは宗教的理由よりもむしろ政治的理由で非難され、実際には異端ではなかったが、絶対王ルイ14世は自由で独立した意見を受け入れず、さらに、王の顧問であるイエズス会はジャンセニストの敵であった。1710年、国王は修道女とソリテールを追放した後、ポール・ロワイヤルの完全な破壊を命じ、信じられないことに墓地の破壊まで命じた。したがって、亡くなった修道女らの骨は地面から掘り出され、遠く離れた共同の墓に投げ込まれた。(ポール・ロワイヤルが巡礼の地にならないように!)1625年母院の混雑を緩和するために新たなポール・ロワイヤル修道院がパリに建設された。パリのポール・ロワイヤルと呼ばれ、多くの修道女がここに移ることになった。しかし、修道女たちの追放があり1790年に閉鎖され、別派の修道院となって現在に至っている。

**サングラン(Antoine Singlin)(1607-1664):フランスの聖職者。Port-Royal修道院にあって修道女たちの上司であった。パスカルの精神的指導者。

日本の四季のレシピをフランスで

弥生、三月、桃の節句が過ぎ、日一日と桃色に染まる春へ向かいます。三寒四温、まだまだ春の中にも寒い日が続きます。おかえりなさい。今日もお疲れ様でした。あたたかいごはんをどうぞ。

【春の混ぜご飯】食事は、家族の、友人との思い出とともにあります。私の友人が、作ってくれた混ぜご飯、にんじんがたくさん入ったオレンジ色いっぱいの、この季節になると、友人の優しい笑顔とともに思い出します。かんぴょう、干しシイタケをもどし、細かく切り、油揚げは油抜き、しいたけの戻し汁で、煮ます。砂糖、みりん、しょうゆ。途中、にんじんの千切りをたくさん入れ、煮えたら、炊き立てのごはんに酢を少々、全部混ぜます。薄焼き卵を細く切り、ゆでたブロッコリーを飾りに。お好みで海老もどうぞ。



【わかめとキャベツの酢の物】春先になると葉先がとがったおいしいキャベツを蒸し、一口大。わかめ、酢、塩、しょうゆ、みそであえます。

【ブロッコリー中華風】簡単にぱぱっと作れます。フライパンにごま油を熱し、にんにく、しょうが、ブロッコリーを炒め、茎も。酒、塩を入れて炒め、水を入れ、ブロッコリーが柔らかくなるまでそのまま。途中、ケール、キャベツも入れ、歯ごたえが残る程度になったら、水溶き片栗粉を入れて、とろみをつけたら出来上がり。

【ねぎの卵とじ お吸い物】

【里奈の今月のおすすめレシピ】

三月は雛祭り、小さい頃、3月3日になると、母は私の友達をよんで、混ぜご飯とデザートに木苺の寒天を作ってくれました。

寒天、Agar-agarは使ったことはありますか。最近、動物性のゼラチンがよく使われますが、日本では昔から寒天が使われます。寒天は、天草という海藻からくるもので、植物繊維が豊富で、腸内環境を整えてくれます。寒天で、フラワーゼリーを作りました。200cc水、1gの寒天Agar-agarパウダーを入れ、沸騰させ、火を止め、10分ほどゆっくり混ぜながら冷まし、カップに注いで、お花、フルーツを入れて、冷蔵庫に入れて固めます。抹茶シロップとどうぞ。小さじ一杯の抹茶、大さじ4の砂糖、大さじ2の水を入れて火にかけ弱火で少々煮ます。



紫芋のポテトサラダ

抗酸化物質を豊富に含む紫芋を蒸してつぶし、蒸したにんじん、きゅうり、玉ねぎを混ぜ、マヨネーズ。又は、塩、レモン汁、オリーブオイル。



倉田 節子・フィエベ 里奈

インスタグラム: @lina_fieviet
ウェブサイト: linafieviet.com
著書『LA TRADITION DU VEGETAL(éditions la plage)』の購入は一般書店及びeBookで
<https://www.laplage.fr/produit/386/9782383380443/japon>



終(つい)のデザインのススメ

己の最後を決めるための
日本における相続・遺言の基礎知識 (59)
(日仏間も視野に入れて)

相続まわりのDX化

このところずっと相続以前の問題を「4つのマトリクス」で考えるとの話をしていたのですが、閑話休題。ちょっと横道に逸れます。

◆いよいよ本格化か?! 相続手続まわりのDX化

日本で相続が起こり最初にやることは、戸籍関係の収集です。いったんもれなく集めれば非常に便利ですが、亡くなった方が戸籍を転々と変更していた場合や、兄弟姉妹相続（傍系相続）の場合、戸籍の取得数が多く、戸籍が合計20通ほどの「束」でやっと相続関係が証明できます。この戸籍の束を相続の各手続に利用し原本を返却のためコピーが必要となると、紙の無駄、時間の無駄、手間の無駄、と無駄の何重苦だったところ、2017(平成29)年から法定相続情報という相続関係の一覧図がA4サイズになった公的証明書の交付制度が誕生し、このコーナーでもご紹介しました。この制度、現在、かなり普及しています。相続手続「限定」ですが、登記、税の申告、預貯金口座解約など金融機関での使用、年金、その他の相続手続で日本全国で便利に使えるようになりました。

しかし、この法定相続情報証明書の作成には、亡くなった方（被相続人）の戸籍をとにかく「全部」集める必要があり、そのほか相続人の戸籍も全員分必要です。相続人が各地に散らばっている場合や、被相続人が結婚離婚を繰り返したり転籍をしている場合には、全国津々浦々の市区町村の役所でこれらを1つずつ集める必要があります。これがかなりの手間なのです。この作業が、この3月1日から、軽減されることになります。

◆戸籍がワンストップで取得できる！こともある

「戸籍の広域交付制度」。6年ほど前に改正された戸籍法で定められた制度がようやく現実化し、一定の要件のもと、自分や親、子供等の戸籍類一式が、1つの窓口で取得できるようになりました。

上述の法定相続情報の制度がスタートした頃から、戸籍の取得のワンストップ化に向けて法務省がんばって来～、との噂は聞いていましたが、すっかり忘れていたら、先日2024年2月21日、河野太郎デジタル大臣（日本の行政関連のデジタル化を推進する大臣）が、X（旧ツイッター）で、

「3月1日から戸籍の広域交付を始めます。本籍地以外の自治体窓口でも、本人、配偶者、直系尊属・卑属の全国の戸籍証明書、除籍証明書をまとめて一カ所でとれます。（コンピュータ化されていない戸籍を除く）郵送・代理人請求はできません（ごめん）」とツイートしたのです。おお！やっとこの戸籍のワンストップ化スタートか～！と感無量でした…。

◆戸籍の広域交付制度とは

これまで、本籍地の役所の窓口や郵送で交付されていた戸籍が、本籍地以外の市区町村の窓口でも、戸籍証明書・除籍証明書を請求できるようになったのです（広域交付）。これにより、本籍地が遠くにある方でも、自宅や勤務先の最寄りの市区町村の窓口で請求でき、かつ、必要な戸籍の本籍地が全国各地に散らばっていても、1か所の市区町村の窓口、つまり全国の役所（本庁）“どこでも”&“まとめて”戸籍類が請求できる制度です。コンピュータ化されている戸籍等が対象で、あくまでも戸籍「謄本」という家族全員が記載されたものが対象です。ただし、河野太郎大臣がXで「ごめん」と言っているのとおり、郵送や代理人によるこのワンストップ請求はできません。（ええええ！！です、専門職で代理でお仕事している身としては…）

つまり、相続人「本人」が顔写真身分証明書持参で、役所の窓口（本庁）に出向いて申請する必要があります。また、取得できる範囲が、直系の親族と配偶者のみ、つまり、親、祖父母、子、孫、配偶者だけです。つまり、兄弟姉妹の戸籍はこれまでと同様、1つずつ窓口が郵送で集めるしかないのです…。

◆更なるDX化進行に期待したいが…

さて、今日は2024年3月1日。このワンストップ制度開始の初日ですが、すでに全国の市区町村で請求が「お手上げ」状態になっているとの情報が流れています。。。嗚呼。。。まだ、始まったばかりの制度ですので、本当に使える制度か否かは見守る必要がありそうです。残念ながら、この制度では郵送請求は不可ですから在仏の皆様が直接利用はできませんが、日本帰国時に利用や、親類やご友人に、こんな制度が始まったようだとの話の小ネタにしたいだけです。

とはいえ、今後の相続手続の更なるDX化に期待です！



司法書士 桑瀬 登起子（くわせ ときこ 会員）
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445 / FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15-38-202



連載

フランス生活 養生訓



第18回 野菜の魅力と上手な食べ方

みなさん、野菜食べていますか？

野菜は「身体に良い」と頭では十分理解できていても、普段から意識しなければ十分な量を摂るのが難しい食べ物です。イライラしてお酒を飲みすぎたり、チョコレートやクッキー、ポテトチップスを爆食いしすぎたりすることはあっても、インゲンを爆食いするというような話はあまり聞いたことがありません。

野菜の長所は、①カロリーが低いのでたくさんの量を食べてもカロリーオーバーにならないこと②水分を多く含んでいること③ビタミンやミネラルが豊富なこと④食物繊維を多く含んでいること⑤抗酸化物質を含んでいること、などが挙げられます。

体重増加が気になる方は野菜をうまく使うことで満腹感を得られ、量をたくさん摂ってもカロリーを抑えることができますし、普段から水分を摂取する習慣がない方は、野菜を摂ることで水分補給の一端を担うことができます。なお、抗酸化物質とは酸化の働きを行う活性酸素を抑える物質のことで、ビタミンA、C、Eやポリフェノール、カロテノイドなどに含まれています。ポリフェノールはブルーベリーをはじめとするベリー系や黒豆、赤ジソなどに含まれるアントシアニン、大豆に含まれるイソフラボンやサポニン、そばに含まれるルチン、緑茶に含まれるカテキン、ピーズ（Betterave）に含まれるベトシアニンなどがあります。カロテノイドは緑黄色野菜や果物などに含まれるβ-カロテンやリコピン、えびやかになどの甲殻類や、さけなど魚類がもつアスタキサンチンなどがあります。

たばこやアルコール、激しい運動や加齢、ストレスや紫外線などが原因で活性酸素が大量に作られると過酸化脂質を作り出し、老化、免疫機能の低下、がん、動脈硬化などを引き起こすといわれていますが、これらの抗酸化作用を持つ野菜（果物を含む）を毎日400gほど摂取することで大腸がんなどのいくつかのがんや心臓病、脳卒中、糖尿病などを予防することができます。

ただ、野菜を食べているのだけだなんだかしっくりこない…という方は食べ方がご自身の体にあっていないのかもしれないかもしれません。みなさんは普段野菜を摂る時に「生野菜」「温野菜」のどちらで食べていますか？

「生野菜」のメリットは調理の際の水に溶けてしまうビタミンB、Cやカリウムなどを失うことなく食べられることです。また、野菜にはデンプンやタンパク質の消化を助けてくれる食物酵素が含まれているのですが、これらは加熱によって失われてしまうので、生野菜を食べることで食物酵素の効果を発揮することができます。一方で、胃腸の弱い方は要注意！生野菜はただでさえ消化に時間がかかる上に、野菜の皮や筋の部分には便の量を増やし大腸を刺激する不溶性食物繊維が含まれており、胃腸が弱っている方は便の量が増えても腸が正常に蠕動（ぜんどう）運動をすることができず、便秘改善のために良かれと思って生野菜をたくさん食べたところで却って便が固くなって詰まってしまう深刻な便秘の原因となります。

そして、生のニンニクや玉ねぎにも気をつけて！これらネギ属の植物にはアリシンという血液をサラサラにする成分が含まれているのですが、殺菌作用が強く、胃腸が弱っている方は下痢や腹痛などの症状を引き起こす恐れがあります。身体に良い食べ物でも摂りすぎは禁物ですね。胃が疲れていると感じたら刺激の強い食べ物はお休みして胃腸を労しましょう。そして生野菜も然り、何でもよく噛むことが大切です。よく噛むことによって消化酵素を含む唾液が口の中から分泌され、食べ物の消化を助けてくれます。

「温野菜」のメリットはボリュームを減らしてたくさんの量が食べられること、消化しやすいことや調理によって野菜本来の風味が引き出されることです。一方で調理の際の水に溶けてしまうビタミンなどが流失してしまうので栄養価が低くなる可能性があります。ただし、具沢山のお味噌汁や野菜スープはビタミンやミネラルが溶け出した汁まで食べることができるのでおすすめ！特に寒い季節は野菜たっぷりの汁で温まりましょう。

参考文献：

厚生労働省e-ヘルスネット：野菜、食べていますか？
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/food/e-03-015.html>
厚生労働省e-ヘルスネット：抗酸化ビタミン
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/food/ye-008.html>
厚生労働省e-ヘルスネット：抗酸化物質
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/food/ye-009.html>

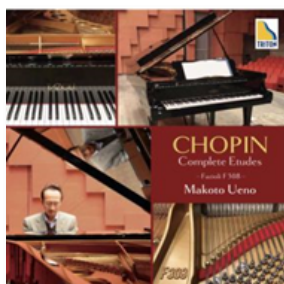


小椎尾 真衣（こじお まい）
Dietéticienne-Nutritionniste /管理栄養士
Instagram
<https://www.instagram.com/diet.japonaise/>
（日々の食生活をゆるーり綴っています）



ピリオド楽器と現代ピアノ

在仏日本人会会報の会員に、前回ご紹介したピアニスト上野真氏が録音された他のCDの内容をお知らせします。



ショパンとリストの生存当時のピアノで録音されたものをご紹介します。

1846年の**ブレイエル**・ピアノを使用したショパンのソナタ第3番《口短調OP.58》、そして1852年の**エラール**・ピアノで演奏されたショパンのソナタ第2番《変口短調OP.35》〈葬送〉。同じ曲でブレイエル・ピアノとエラール・ピアノを聴き比べられるように〈葬送行進曲〉がボーナストラックとして収録されています。そしてリストの《巡礼の年報第2年》の〈イタリア〉（S.161）と補遺〈ヴェネツィアとナポリ〉（S.162）です。

ショパン：2013年5月22-23日 三重県総合文化センターにて収録。

リスト：2011年9月29日-10月1日 富山・北アルプス文化センターにて収録。

楽器は**山本宜夫氏**・「**クリストーフオリ** 堺・ヤマモトコレクション」が所有するブレイエルとエラールです。



ピアノ製作者として著名なイグナツ・ブレイエル（1758-1831）はオーストリア人

で、**ヨーゼフ・ハイドン**に師事、作曲分野にも実績があります。

ブレイエル(No.13710)はパリ1846年製造、85鍵（AAA～a4の音域）、長さ2450mm、幅1380mm、イギリス式**アクション**、テンションバー5本の仕様。独特な**ダンパーペダル**（右）は少し踏み込むと「**鍵盤中央のドc1から低音全体**」、さらに踏み込むとそれに加えて「**鍵盤中央のレd1から中高音部全体**」のダンパーペダル効果が得られます。

現在のピアノで楽譜にある作曲家が指示した長いペダルをそのまま使用すると「過度な混ざり合い」が起こり、それを避けるペダルの踏みかえは「旋律の流れと和声の響きの中断」となります。現代の通常のピアノでは作曲家指示の長いペダル記号を様々に変更せざるを得ません。

セバスチャン・エラール（1752-1831）はストラズブルで生まれ、1768年にパリのチェンバロ製作者のもとに弟子入りし、1777年に**ツンペ**の**スクエアピアノ**を手本に完成させたのがフランスで初めてのピアノとなりました。1789年のフランス革命でロンドンに逃れ、グランドピアノを制作。エラールが考案した「**ダブルエスケープメント**」は打鍵機能、弾いた指を元の位置まで戻さなくても同じ音を素早く鳴らすもので、リスト〈タランテルラ〉でその効果を聴くことが出来ます。このエラールはロンドン1852年製造、85鍵（AAA～a4の音域）、長さ2380mm、幅1370mm、イギリス式（エラール）**アクション**、テンションバー5本の仕様となっています。

ジャンル《エチュード》は幅広く、入門時の〈お稽古〉や〈指の訓練〉のように読譜の手引きや指慣らしのものから〈演奏会用練習曲〉まで様々なものがあります。ショパンとリストの《エチュード》は実技試験やコンクールに必須です。

ショパンの作品はピアノ演奏の神髄が備えられ、これを二十歳前後で完成しましたが、自身のために書いた作品を謙遜してExercitien(指のための訓練)と名付けました。リストは15歳で《12の練習曲（1826）》を発表、《第2版（1837）》を経て《**超絶技巧練習曲集**（1851）》まで、リストの人生を辿れます。

ピアノという楽器を演奏する技術と表現を具象化した最高のエチュードをショパンとリストに求めて、それを21世紀の今日聴くには、楽譜を読みながら現代の最高の楽器と結びつけたものを選ぶと面白いでしょう。

上野氏が現代楽器で《エチュード》のジャンルを収録されたものを聴くと、「ピアノ音楽史」を歩むことが出来ます。

リスト：2003年8月16-18日 大阪・イシハラホールにて収録。ヨーロッパや日本で通常聴くことの出来る**スタインウェイ**はハンブルグ製ですが、ここではニューヨーク製を使っています。使用楽器：スタインウェイピアノ・ニューヨーク製・**モデルD274 #903**（2003年製）

ショパン：2020年3月24-27日 福井県美浜町生涯学習センターなびあす"Navi-us"にて収録。**ファツィオーリ**は現代のイタリアの銘器です。

使用楽器：ファツィオーリFazioli **F308 #2047**（2012年製）

山崎 孝（やまざき たかし） 1937年生まれ。東京藝術大学卒業。ピアニスト

グローバル時代のコミュニケーション

～国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション～

【第41回】

みなさまこんにちは。

あつという間にもう3月ですね。本年も1/6が過ぎました。日本では北陸の震災が予想以上に被害が大きく、復興まではまだまだかかりそうです。また政治は裏金問題で大きく揺れています。古いビジネスパーソンはGNPがドイツに追い越され4位になった、などと嘆いている方もいらっしゃる。政治の混乱を早く解決し早くサステナブルで世界に貢献できる日本になってほしいと本当に思います。

パリはいかがですか？オリンピックに向けてさぞ活気づいているのではないかと思います。

さて、このコラムでは、これまでの私の経験体験から、グローバル人材に必要な考え方やスキルのベースとなっているものについて、いろいろとお話させていただいています。新しいガウディ・ミーティングという手法について私なりの考え方をお話させていただいています。本年もこの続きから始めさせていただきたいと思います。

前回まではなぜ今このようなアプローチが必要なのかについてお話をさせて頂きました。今回はその続きです。

私は価値観の違いを理解することが組織をより良いものにする、このことを15年前に気づきました。自分の価値観に気づき、他人の価値観を認める力であると定義した「人間力」をベースとし、さらにファシリテーションスキルとコーチングを一つにまとめたメソッド「**コーチアプローチファシリテーション**」を開発し、この普及のために起業しました。そして3万人以上のリーダークラスの方々に改良を加えながら指導させていただきました。受講者からは「良好な上司部下の関係ができた、強いチームになった、人間の本質がわかった、今までの研修の点と点がつながった」などと嬉しいお言葉を頂いています。ここで重要なことは、みんなが納得できる全く新しいチームの「目標、ビジョン」をみんなで作ることのできる会議手法です。

「ガウディミーティング」ではこの自分の価値観への理解と、他人（特に部下）の価値観を理解し、承認することを無理なく実践できるように設計しました。また、共通言語を「ガウディのように発想する。ガウディのサステナブルの視点を取り入れる。ガウディのように常に前向きにビジョンを発信する。」ここから参加者が当事者意識を持って、自己変革が進められるように設計されています。

メンバーの共通言語としての「ガウディミーティング」が確立すれば、上司、部下、メンバーが、それぞれ高い意識で、自分たちの目指すべきビジョンを作り上げることが出来ます。このことが、組織開発を行う上でとても重要な起点になるのです。では、実際にガウディは、どんなことをやってきたのでしょうか？ここではガウディの知恵を、少しだけご紹介したいと思います。

1. ガウディの構想力

ガウディは建築家でしたが、後期の作品は建築物ではなく総合芸術作品として設計しています。彼は建物と装飾、内装はそれぞれ別のものではなく、それぞれを一体として完成させています。例えば、サグラダ・ファミリアの装飾の一部は、装飾の役割だけでなく、建物の強度を保つ働きを兼ねています。またサグラダ・ファミリアは、それ自体が楽器と言われています。建物の中に楽器があって、それを人々が聴くのではなく、音楽の中に人々を誘うという発想です。建物、内装、装飾はそれぞれ別のもの、という発想ではなく、彼の作品は全体一つの物語を表現しているという、とらわれのない構想力から出来上がっていました。

サグラダ・ファミリアは建物全体が楽器？



つづく

大山裕之

コンティニュー株式会社 代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟 理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

場所と

人の出会い

[50]

サン・シェフのロマネスク教会と無名の工人たち



église abbatiale de Saint-Chief (教会正面)



リヨンから東へ60km、クルマで約1時間のところにサン・シェフという小さな村がある。3000人の静かな中世の佇まいが残る村である。村の中心にある市役所の道を挟んだ向かい側にサン・シェフ教会は佇んでいる。11世紀末に建設されたベネディクト派の教会である。

19世紀に行われた修復時に、この教会の直ぐ近くに白い大理石の破片が見つかり、ガロ・ロマンの重要な遺跡の一部と考えられているそうだ。モゾレ(霊廟)があったらしい。今でさえ、奥深く感じられるのだから、当時は全くの山岳地帯であつたろうと思う。そんな所に建てられた大理石のモゾレは一体誰のものであつたか。

この教会は6世紀、この地に生まれたベネディクト派の修道士チューデル・ド・ドフィネがこの近くに最初の小さな修道院を開き、その修道院の周りに村が出来ていった。9世紀のある古文書に「多くの野生動物と毒蛇に満ちた深い森…」という記述があり、如何に奥深い森の中であつたかが想像できる。しかし12世紀に修道院は繁栄の頂点を迎え、12のプリウレ(小修道院)と80の教会を持っていたそうである。

私は今回ガイドとして、ロマネスク・アートを愛好する方々のグループをご案内してこのサン・シェフへやって来た。この旅の最初の見学地である。美術史家で多摩美術大学美術学部芸術学科教授の金沢百枝先生が一緒であるという貴重な機会に恵まれた。ロマネスク美術がご専門の彼女がこのサン・シェフ教会の見学を選択されたという。この教会のチャペルに12世紀の聖ヨハネの黙示録を描いたフレスコ画が見事に保存されているのである。保存の為に6月から9月の間だけの特別ガイド見学に申し込む以外には見られないチャペルであるが、サン・シェフ市が特別に開けて下さり、市役所職員のエヴリンさんが約2時間、熱弁を奮って教会全ての解説をして下さった。

教会の入り口はゴシック様式の装飾が後の時代に取り付けられている。内部の身廊と側廊はどしりとしたロマネスク様式のアーチと柱で支えられている。柱頭の装飾も古代の影響やロマネスク独特の素朴な表現で聖書の物語りを表現している。身廊と内陣の境のトランセプト(交差廊)の両側の袖にはフレスコ画が描かれている。交差部に近い身廊の両側の壁に小さい穴がいくつか見えて何かと思ったが、実は壺のようなものが入れ込んであって、音響効果の工夫であるそうだ。さらにエヴリンさんの解説では2階にあるチャペルからも修道士たちが対話のように歌い合ったということであるから、修道士たちが歌うグレゴリオ聖歌の響きはさぞかし荘厳で素敵であつたろうと想像できる。



身廊

チャペルのフレスコ画
栄光のキリスト

マリアと天使



天上のエルサレム



預言者たち



袖廊のフレスコ画

このチャペルは後に古文書の保管場所になっていて、それでフランス大革命時の破壊を免れたという。フレスコ画もとても良い保存状態であると思われた。ヨハネの黙示録を描いたフレスコ画が全体に満ちているこのチャペルは勿論歴史的記念建造物に指定されていて、同じ大きさのレプリカがパリの建築美術館に展示されている。

天井にはアーモンド型の大きな枠の中に「栄光のキリスト」が両手を広げている。その周りには天使たちがキリストを囲んでいるのであるが、天使たちの羽の向きが面白い。キリストの上下に描かれた天使たちの羽は真すぐにキリストを指し、両側の天使たちの羽はまるで「キリストはこっちだよ」と言わんばかりに曲がって描かれている。何かユーモアが感じられて、このフレスコ画を描いたアーティストのユニークな試みに微笑んでしまった。キリストの直ぐ下には聖母マリアが天使たちの中に描かれ、周りの壁には、24人の長老たち、キリストの12使徒、預言者たちが描かれている。今でも素晴らしい色彩が保存されているが、当時はさぞかし美しかったろうと想像する。この修道院の繁栄を思い起させるシンボルのフレスコ画である。

この教会も紆余屈折の歴史に翻弄されて、修道院の建物は他の建設の資材に使われ、残っているのは今はこの教会だけである。

ロマネスクのアートはカロリング朝崩壊後、11世紀、12世紀に見られるそれぞれの地方色を加味したフランスで生まれたアートである。当時のアーティストは修道士もいたし、工人たちは教会や領主に召し抱えられていた農奴でもあつたようだ。彼らのイマジネーションの自由さに驚くアートがロマネスク美術の魅力である。

観光局の連絡先は0474277383。機会があつたら是非訪れて欲しい教会である。

フランス政府公認ガイド 平井 愛子



自選句集 148

(入会順)

スニーカーの下ろし立てなる冬日和
薄氷の薄日うけるしづけさよ
冬の地震狼煙の海に朝日差す
青保ち崩れし門の注連飾
時を待ち厨にならぶ葱一輪
セーヌ川たゆたふ波に冬日染む
語らうた途をたどるや犬ふぐり
薄氷を音なくわたる辻の角
用なくも近所一周冬日和
薄氷の下に動かぬ鯉の群れ
両手あげとぼけた樹々の春待ちぬ
冬日和見のがすまいと森歩き
冬日和垂れこむ雲とにらめっこ
踏まれても負けずに生きろ犬ふぐり
うすらひの湖を渡れぬ淡き恋
薄氷に吾の心を映しけり
冬日和淡き光につつまれん
人知れず活けることなく犬ふぐり

美佐子 美佐子 茜 茜 春代 春代 佳久子 佳久子 容子 容子 なをみ なをみ 万里 万里 勝義 勝義 ヨシ ヨシ

日本人会フランス語講座 2024年 4月～7月

月		火		水		木		金	
9:45-12:00 会話入門_3 1 Laurent	10:00-12:15 入門_2 4 Florence	9:45-12:00 A1 8 Marine	9:45-12:00 A1/A2 10 Laurent	9:45-12:00 A1 14 Laurent	9:45-12:00 入門_1 NEW! 16 Laurent	10:00-12:15 A1 24 Florence	9:45-12:00 入門_2 30 Laurent	9:45-12:00 会話 A2+ 20 Muriel	
12:30-14:45 A1/A2 NEW! 2 Florence	10:30-13:00 会話 B2+ 5 Muriel	12:30-14:00 A2+/B1 火/木 9 Muriel	13:00-15:15 会話 A1/A2 11 Laurent	13:00-15:15 会話A2 NEW! 27 Marine	12:30-14:00 A2+/B1 火/木 9 Muriel		13:00-15:15 入門_1 NEW! 17 Laurent		
15:00-17:15 会話 A2 28 Florence	13:00-15:15 会話入門_3 34 Laurent								
	17:15-18:45 DALF C1 6 Muriel	17:15-18:45 DALF B2 12 Muriel		17:15-18:45 DALF B1 15 Muriel		17:00-17:45 KIDS 29 Laurent	17:15-18:45 DALF A2 19 Muriel		
19:00-20:30 入門_1 NEW! 3 Laurent	19:00-20:30 A2 月/水 7 Muriel	19:00-20:30 A1 31 Laurent	19:00-20:30 会話 A2 NEW! 33 Muriel	19:00-20:30 A1/A2 月/水 7 Muriel	19:00-20:30 入門_4 26 Laurent	19:00-20:30 入門_3 21 Laurent			

Skype

日本人会
教室

日本人会では、**2024年4月15日（月）**から始まるフランス語講座の生徒を募集しています。

- ・これまでフランス語を勉強したことのない方向けのクラスから、DALF C1受験用の上級者クラスまでレベルに合わせてお選びいただけます。
- ・楽しい雰囲気の中で学習できる「教室クラス」と忙しい方などが移動せずに授業を受けられる「オンラインクラス」があります。（教室クラスは定員8名、オンラインクラスは定員6名。少人数で効果的学習が可能です。）
- ・日本人の弱点を知り、日本人の指導に精通した講師が揃っています。
- ・オンラインクラスはフランスの地方、日本からの受講も可能です。

今期新設のクラス

- 木曜9時45分～12時の入門_1（教室クラス）、金曜13時～15時15分の入門_1（教室クラス）、月曜19時～20時30分（オンラインクラス）入門_1：はじめてフランス語を学習する方向け
- 火曜13時～15時15分 会話A2（教室クラス）
- 火曜19時～20時30分 会話A2（オンラインクラス）
- ・ DELF/DALF対策講座は Muriel NAVARRO講師（DELF認定官）による試験対策講座。非常に高い合格者を誇ります。
- ・ キッズクラスは、小学生以上が対象です。
- ・ お一人2クラス*まで体験受講をしていただけます。*2クラスというのは同じクラスを2回という意味ではなく違うクラスを2つお試しいただけるという意味です。また、次学期のための体験受講は受け付けておりません。
- ・ 途中入校も可能です（受講料は回数割で15%割増）が、体験受講含め残り授業数8回以降はできません。
- ・ DELF/DALFのクラスはお試し受講であっても受講前にレベルテストを受けていただきます。
- ・ 講座の申し込み人数が3人に達しない場合はそのクラスは開講しない場合があります。
- ・ 日本人会フランス語クラスの受講は日本人会会員に限ります。

フランス語レベル目安 は以下のリンクよりご覧ください。

https://zaifutsunihonjinkai.fr/wp-content/uploads/2022/06/2022_SEP_niveaux_francais.pdf

日本人の特徴を知り尽くした講師陣による授業

Mme Florence MEHRVAR
Mme Marine VALLE
Mme Muriel NAVARRO
M Laurent LOYER

料金表と授業のスケジュールは下記リンクよりご覧ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/non-category/post-78241/>

問合せ・申込：
Tel. 01 47 23 33 58
coursfr.ajf@gmail.com

目次

第15回音読発表会	1-2	日本の四季のレシピをフランスで	8
フランスにおける日本語教育と私	2-3	終（つい）のデザインのススメ	9
日本人会の読み聞かせ	3	フランス生活養生訓 第18回	9
パリ日本文化会館事業案内	4-5	ピリオド楽器と現代ピアノ	10
日本人会「川柳パリ会」	5	グローバル時代のコミュニケーション	10
舞台裏より愛をこめて vol.15	6	場所と人の出会い <50>	11
フランス人物伝 <15>	6	ふらんす俳句会	11
日本人会活動案内	7	日本人会フランス語講座	12
フランス歴史散歩道	8		

日本人会会報 Journal Japon

年6回発行：第49巻2号（通巻306号）

発行人 片川 喜代治
編集人 高橋 幸隆
レイアウト 杉山 清美
発行 在仏日本人会

Association des Japonais en France
(IB) Association amicale des ressortissants japonais en France
9, Av.Marceau 75116 Paris
TEL: 01-47-23-33-58

月～金 du lundi au vendredi 9:30-12:30 /13:30-17:30
www.zaifutsunihonjinkai.fr contact@nihonjinkai.fr
*サイト内「会報」「お知らせ」のバックナンバーを閲覧する際のパスワード：heian2020
*本誌の無断転載を禁じます